

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 44 号

エリートスイマーのメンタルタフネス尺度開発

(Development of the Mental Toughness Scale for Elite Swimmers)

伊藤 華英 (いとう はなえ)

博士 (スポーツ健康科学)

論文審査結果の要旨

【研究目的の特徴・独創性・論理性】

研究目的はトップレベルの競泳選手を対象としたメンタルタフネス測定尺度の開発であった。開発された尺度はトップレベルの競泳競技のパフォーマンス発揮をサポートする上で有用と考えられる。国内外の先行研究を丁寧に整理して論理性を持たせた上で、エリート水泳選手を対象とした新たなメンタルタフネスの測定尺度を作成した点に独創性がある。2020年の東京オリンピック・パラリンピックでの競泳種目での競技力向上を視野に入れ、現場での有用性を重視している点にも特徴があるといえる。

【研究方法の妥当性】

メンタルタフネス測定尺度の開発は、心理学領域における心理尺度の作成方法に則って行われており、方法論の信頼性と妥当性が保たれているといえる。方法の記載は詳細に行われ追試可能である。倫理的配慮についても適切に行っている。統計処理は心理学領域の方法論と先行研究をもとに実施されており、統計学的にも必要な手続きを踏んでいるといえる。

【結果・知見の新しさ】

エリート水泳選手を対象に現場で簡易に使用できる 15 項目のメンタルタフネス尺度を開発した点に知見の新しさがある。目的と方法に対応して結果の記載がなされており、心理尺度の作成に必要なとされる妥当性についての検証も行われている。図表については、一部表現を改める必要があるものの、概ね適切なものといえる。

【考察および結論の妥当性】

本研究では、競泳メダリストを対象とした予備調査を経て、日本選手権出場者を対象として本調査を行うという手順で展開されている。心理尺度を作成する際に検証すべき妥当性について十分な値が得られており、先行研究の結果と比較して論理的な考察もなされている。DIPCA3 との比較についても説得力のある結果が得られていると思われる。考察には、アンケート結果の性差ないしは競技力との関係について説明不足である点が見受けられたが、論理的な飛躍はなく、研究の限界を踏まえた結果の解釈が行われており、特に問題はないと思われる。

【研究の当該分野における位置づけ】

本研究は、今後の日本の競泳選手をサポートするための基礎となる研究である。国際大会でのメダル獲得が期待される競泳選手においてメンタルサポートの重要性が指摘されていることから、本研究の知見は今後ますます重要な役割を担うと言える。今後は、本尺度を用いてエリートアスリートの心理サポートを展開する予定であり、スポーツ健康科学分野での貢献が期待できる。

【質疑に対する応答の適切性】

質疑に対しては、確認のため即答を避けた部分もあったが、すべての質問に対し真摯に言葉を選びつつ、丁寧かつ論理的な応答が行われていた。

【論文審査の結果】

学位申請者は、研究の計画と立案、調査の実施、論文の執筆、査読結果への回答など研究活動の主要な役割を担っている。審査会は、本研究が独創性、論理性に富み、信頼性、客観性があると認め、博士論文として一定の内容を有していると判断し「合」とした。